

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2022年度 助成者)

作成日 2022年 8月 23日

氏名 (フリガナ)	夏目皓介 (ナツメコウスケ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2022年8月15日 (月) ~ 8月20日 (土)
大学名	香川大学
学年	5年

この度は、日米医学医療交流財団より留学助成をいただき、2022年度医学部夏期集中医学英語研修に参加させていただき、非常に有意義で貴重な学習を行うことができました。

本研修ではPBL (Problem Based Learning) を通じて、英語による History Taking や Case Presentation を集中的に学ぶことができました。毎日午前中に日本からの参加学生同士による PBL の練習を行い、夜にはハワイ大学医学部の学生 (1~2年生) と共に PBL を行い、現地で働かれている医師の先生を前に Case Presentation を行うという非常に実践的なカリキュラムとなっていました。そこでは、Dr. Shon から学んだ History Taking で聞くべき事項、Case Presentation の Format など PBL の土台となるところから、実際の Case Presentation 毎に医師の先生方から具体的な質問の方法や症候の着眼点等をアドバイス頂く実践に近いところまで、一連の練習を短期間に数多く行うことができました。これまで日本語での PBL もほとんど経験してこなかった私としては、英語と PBL を同時に行うという非常に負荷が大きなものでしたが、これから様々な場面で練習を積んでいく基盤をこの研修を通じて得ることができたと考えています。さらに PBL の課題となる症例についても、複数の鑑別疾患を挙げていく難しさなどがあり、症候学的な診療科横断的医学知識を蓄積していくこと、History Taking を通じて複数の鑑別疾患を可能性毎に順位づけしていくことの重要性を学ぶことができました。

また、現地のクリニックである St. Lukes Clinic やハワイ大学医学部の JABSOM (John A. Burns School of Medicine) の見学の機会も設けていただくことができました。施設や立地が非常に充実しており、日本とのシステムの違い等は勉強になり、また将来を考えていく上で非常に大きな刺激を得ることができました。

このように、国内では得ることができない貴重な時間を過ごすことができましたが、これら研修を通じて新たに非常に魅力的な仲間たちと出会うことができました。今回、所属大学からは一人での参加でしたが、初日に設けられていた Welcome Party や最終日の Closing Ceremony 等を通じて全国から参加する様々な大学の医学生と交流を深めることができました。特に本研修に参加している学生は、将来海外で働くことを強く考えている方が多かったので、多くの貴重な情報交換や意見交換を行うことができました。また、上述したとおりハワイ大学の医学生とも研修を通じて親交を深めることができました。日本とは違った考え方や積極的な姿勢など刺激になることが多かったです。今後もここで得た仲間とは末長く交流をしていきたいと考えています。

私は、今後留学を考えているため、今回の研修はその準備として最適であったと思います。研修から学んだ PBL の実践方法、History Taking や Case Presentation の Format を用いて継続的に学習をおこなっていき、より留学を効果的なものにしていきたいです。

最後になりましたが、本研修へご寄付いただくとともに英語学習の方法、重要性等を教えていただいた St. Lukes Clinic 院長の小林恵一先生、PBL の基礎を丁寧に教えていただいた Dr Shon、お忙しいなか特別講義や Case Presentation の指導をくださった現地の先生方、東海大・神戸大および Hawaii Tokai International College の先生、スタッフの方々、そして日米医学医療交流財団の皆様には厚く御礼申し上げます。